

## 作業療法士のメンタルヘルス—神奈川県について

## The Mental Health of Occupational Therapists

— about the present condition of Occupational therapists in Kanagawa prefecture —

藤川 千鶴 (Chizuru Fujikawa) 指導：小野 充一

はじめに：医療や福祉、教育分野に従事する人々起きやすいと言われているBurnoutについて、身体障害領域以外に精神科領域も持つ作業療法士（以下:OTR）を対象にBurnoutの研究を行った。

**方法：**神奈川県作業療法士会所属のOTR600名を対象に個人的属性、日本語版Maslach Burnout Inventory-HSS（以下:MBI）、「職場環境」「職務内容」「給与」に関する満足感測定尺度（以下:満足感尺度）、Jichi Medical School Social Support scale(以下:サポート)を尋ねた。  
**結果：**返信291名（返信率49%）、研究参加への同意267名うち有効回答257名、不同意24名。回答者の男女比は男性78名、女性166名、個人的属性の平均値は、年齢32.17歳、1週間の平均勤務日数5.07日、1日の平均労働時間8.55時間、現在の領域での経験年数5.83年、今までの合計経験年数7.37年。現在従事している領域（複数回答）は身体障害81名、精神障害29名、老年期障害38名、身体・老年期・高次脳機能障害21名、身体・高次脳機能障害20名、訪問14名、身体・老年期障害11名、発達障害10名、その他の組み合わせ29名。メンタルヘルスは良好75名、普通162名、不良17名。各スケールの平均値は、MBIの情緒的消耗感（EE）27.79、脱人格化（DP）4.41、個人的達成感（PA）28.76、満足感尺度は職場環境23.51、職務内容23.72、給与17.05、人間関係27.53、サポートは配偶者13.04、配偶者以外の同居家族16.10、友人21.76。Burnoutに個人的属性、職務満足感、ソーシャルサポート与える影響の強さを明らかにするために共分散構造分析を行った。 $\chi^2=114.372$ 、NFI.838、RMSEA.094。結果を図1に示す。（\*\*1%水準で有意）。

**考察：**EEと1日の平均労働時間の関係について、患者と接する時間に関与している。対象者との密な関係は、EEを上昇させる恐れがあるとの指摘があるが本研究ではその時間を調査していない。労働時間のうち対象者と接する時間に割合がどの程度であるか、またEEを上昇させる要因について今後さらなる研究が必要である。DPの低さについて自身の心身の状況に関わらず一定のサービスを提供することは対象者と関わる専門職として、求められる要素である。OTRは自身の心身の状況によって対象者に不利益となる行動を取らないよう自身を律し

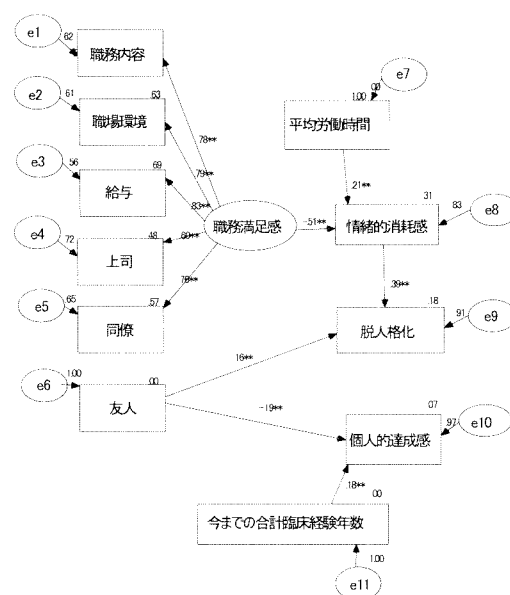


図1 共分散構造分析の結果

ており、その姿勢がDPの低さとして表れたと考える。PAの低さについて人を対象とする仕事の特徴から達成感を得にくいと考えられる。一方で、合計臨床経験年数とPAは相関関係があり、作業療法士としての経験を反映する形でPAに影響を与えていると考えられる。職務満足が低いとEEが高まることから、先行研究で指摘されている職務満足とBurnoutには関係があることが本研究でも明らかとなった。サポートとBurnoutの関係では友人のみがDPとPAに相関関係があった。プライベートな事柄まで援助の期待ができる友人を持つ人は、そのような友人との関係が密であること、そのため自身の仕事の悩みを打ち明けることが可能であると考えられる。打ち明けることや相談することで、Burnoutを回避する手段である感情の共有を行っていると考えられる。

おわりに：本研究の結果から、Burnoutのリスクのある者の条件が明らかになった。該当する者に対して、仕事上の悩みを抱えていないか困っていることはないかなど話を聞いていくことが必要であると考え。話を聞く過程で感情の共有を行うことや、問題点を整理して解決に持つていくことで、職業上のストレス反応の一つであるBurnoutを軽減していけるのではないかと考える。